

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691400075		
法人名	有限会社 おりの		
事業所名	グループホーム ぼかぼかⅡ		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1		
自己評価作成日	平成29年 12月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所においては、隣接する各種介護サービス事業所との連携が密に図れる環境で、利用者様、職員共に交流が図れております。又、協力医療機関とも密に連携をとっており、医療面のバックアップもしっかり図れている。地域の高齢者の方々が、住みなれた所で最期まで生活が、送れるよう体制を整えており、有限会社おりのの理念である『温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援していきます。』に沿った支援と、ぼかぼかⅡの目標である『利用者が日々笑顔で過ごせると共に、職員も常に笑顔絶やさない』を掲げ、家庭的な雰囲気の中、入居者さま職員が共に生活が送れる環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、高齢者複合施設(グループホーム、デイサービス、サービス付き高齢者向け住宅等)のひとつであり、併設する他事業所間連携は勿論、主治医のいる協力医療機関との支援体制を密に構築している。事業所内には、紫陽花を沢山植えたりして利用者や地域住民の心の癒しにもなっている。地域交流は盛んで、事業所のお祭りは、地域のお祭りでもあり、毎年、多くの地域住民参加のもと開催されている。様々なボランティアや保育園児との交流も定期的に行われている。全職員で、理念にもある「笑顔」のケアを欠かさず、コミュニケーションや環境づくりを日頃のケアから実践している。利用者の重度化やターミナルケアにも協力医療機関と連携しながら、看護職員を中心とするチームで取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぽかぽかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者複合施設全体の『温もりと安らぎのある生活を支援します』の理念を活かしながら、ぽかぽかⅡの目標である『利用者様が日々笑顔で過ごせ職員も常に笑顔を保つ』を朝礼後に唱和し、共有を図っている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。職員は、毎朝、理念を唱和して共有し、地域住民とのつながりを大切にしながら、笑顔を保つケアを実践している。利用者が書いた理念をホールに掲げて意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々や保育園児たちが、慰問して下さり、歌や踊りを披露して下さい、慰問して下さった方々と歌の合唱や、踊り等で交流を図っている。	事業所では、併設の事業所と一緒に季節ごとのお祭りを盛大に開催し、地域のお祭りのひとつになっている。日常的に、利用者や家族、地域住民、ボランティア、保育園児などと様々な行事を通じて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する居宅介護支援事業所やデイサービス等があり、入居にかかわらず、支援や相談が行なえるよう、他事業所と連携を図り、いい方向へ支援が行なえるよう対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、花見や秋祭り、クリスマス会等施設行事にも参加して頂きながら、事業所の近況報告や今後の取り組みなどを、報告して、推進議員の方々の助言があれば、施設運営に活かしている。	年6回、行事に合わせて運営推進会議を不定期に開催している。会議には、利用者や家族、地域代表者、町担当者、かかりつけ医関係者などが出席し、事業所の課題や取り組みを報告し、出席者と意見交換を行っている。出された意見は、事業所のサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は、定期的に2か月に1回開催されたい。定期的に開催する事で、変化する事業所の状況や課題及びサービスの取り組みなどについて、適時での意見交換となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類等の提出物があれば、郵送でなく窓口まで持っていき、顔見知りの関係を作り、情報交換もしやすい関係を作っている。	管理者は、町担当者や町社協関係者と運営推進会議をはじめ日頃から顔の見える関係づくりを築いている。事業所の各種報告を担当窓口で直接持参したり、取り組み活動を話し合ったりして、常に協力体制がとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯は行なっているも、日中帯は、開放している。朝礼時、や職員会議等において、身体拘束にあたるかどうかを話し合ったり、研修を行っている。	事業所では、全職員対象の研修の機会を設け、拘束の具体的な内容の理解や取り組みについて共有化を図っている。玄関の鍵は、日中誰もが出入り可能であり、夜間帯のみ防犯上の理由から施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないよう日々職員の処遇に気をつけ、職員からの情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。また職員研修や管理者申し送りなどで、日々の処遇についても考えてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者の方がおられないが、常時勉強会の参加等を行い、対象者がおられた際は支援が出来るよう対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険改正やその他変更がある場合は、文書にして、送付するか、直接訪問し、説明している。利用契約等に関しては、入居前にご家族様と管理者が詳細に説明が出来るよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置しております。また運営推進会議等でも、意見を聞ける機会を設けている。その他、ご家族様が面会等で来られて際に、意見ではないが、利用者様の持ち物で足りないもの等の話は蜜に行なっている。	事業所では、利用者や家族が、意向を表しやすい雰囲気づくりに日頃から努めている。県外に住む家族へは、メールを活用して、情報交換を行っている。玄関には意見箱の設置もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時や、職員会議等で出る意見を、管理者は出来る範囲で反映が出来るよう対応しており、一度は行動に移して、働きやすい環境が整えられるよう施設運営を行なっている。	管理者は、日頃の業務を通じて、職員の意向を把握するよう努めている。リーダーから管理者への報告・相談体制があり、出された意見や提案は、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当事業所は、介護専門職の資格を有するものが多く、さらに上の資格を目指すよう、資格をとると給与に反映されるようになっている。また、残業しなくても済む業務環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の資格取得や認知症実践者研修等外部の研修参加等が積極的に行える環境を整え、スキルアップが行なえるよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関の関係等で、他県のGHや高専等から、施設見学等の受け入れ等を行い、職員の交流や、情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が不安に思っている事を、少しでも緩和が出来るよう、何度か訪問し、安心して今後生活が送れるよう、共に考え、信頼関係が構築できるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様とう同様に、不安に思っていることを少しでも緩和し、本人様の生活がより良いものになるよう共に考え、信頼関係が構築出来るよう支援していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接する他事業所があり、本人様やご家族の要望やアセスメント等で、本人様がより良い生活が送れるよう適切なサービスが提供できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽をみせながら共に共感し、日々生活が送れるよう支援していますが、あまり近い関係で慣れなれしい態度にならないよう、管理者、職員同士で注意を行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の方が、訪問しやすい環境を整え、利用者様と落ち着いた雰囲気の中で会話等過ごせるよう支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、知人の方が訪問しやすい環境を整え、ている。また隣接する他事業所に知人、友人がおられ為、交流を図られている。	事業所では、知人の来訪を快く受け入れるなど、訪問しやすい環境づくりに努めている。馴染みの理・美容室の利用を支援している。ドライブ時には馴染みの場所に立ち寄りたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう留意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の一人ひとりの性格等を把握し、スムーズに生活が送れるよう、職員が合いだに入りスムーズに生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方や、お亡くなりになり退去されたご家族様等、何回かホームへ遊びに来られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り入居者様の想いを尊重し、想いに沿った支援を心がけているも、医療的なこと等での管理で、想いに沿えない部分もみられる。	事業所では、日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。職員は、些細なしぐさや表情の変化から、意向を把握している。本人にとって最良の暮らし方を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前ご家族に、バックグラウンドや、暮らしの情報、嗜好など用紙に記入して頂き、入居時スムーズにホームでも生活が送れるよう、支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	密に体調面や、認知面、生活状態を把握し、少し変化が見られる際は、朝礼時等に話し合い、改善が必要であれば、すぐに対応策を考え、実行しADL面等の低下防止が図れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の朝礼での申し送りが、カンファレンスであるところとっており、入居者様の変化、や問題点等の話し合いを行い、ケアプランに反映し、支援しています。ご家族様の参加は難しいですが、毎月の支払い時や面会時に意見等頂いている。	毎月、モニタリングを行いながら、3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。また、退院時には医療面の情報や看護対応について看護師の意見を含んだ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいて、日々の様子や、ADL面等を記録に記入し、入居者様の変化や状態を職員同士での把握や、ケアプランの見直し時にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る範囲で、入居者様のニーズに答えられるよう、環境を整え、職員の意見も聞きながら、サービスの向上等が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々や保育園児たちが、慰問していただき、入居者様と交流を図り、入居者様の皆さんは、大変喜ばれている様子がみられ、今後も継続して、地域との交流を図っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関とは、密に連携を図っており、医療機関Drより病院受診の指示があれば、ご家族様へ連絡説明を行い、Drより紹介状頂、スムーズに他の病院でも受診が行なえるよう支援している。	事業所では、協力医療機関の主治医と密に連携を図っている。ほぼ毎日、往診があり、利用者の医療・健康面の安心に繋がっている。家族と相談したうえで、専門の医療機関の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、複合施設にて4名介護職として配置しており、協力医療機関Drによる指示や、健康管理等スムーズに行なえるよう支援している。又夜間等も電話連絡が取れる体制を整えてある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は週2回は病院へ訪問し、状態の把握を行い、病院側とも密に連絡を取り、早期退院が行なえるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前にご家族様に、重度化等についての説明を行っており、実際に重度化になった場合は、ご家族、Dr、管理者で話し合い、ご家族様の意思を尊重し、看取りの場合は医療機関、施設でチームとなり、支援が行なえるよう対応している。	事業所では、本人や家族に終末期に関する事業所の方針を説明している。利用者の心身の状態に合わせて、利用者や家族、主治医、職員と話し合い、対応方針の共有化を図っている。看護職員の配置があり、医療・看護面において協力しながら終末期のケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は夜間でも、Ns、Drに連絡が取れる体制を整えてあり、緊急時の対処方法等は、Nsにより定期的に説明や研修を行い、スムーズに対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練実施しており、連絡体制も整えており、施設に近い職員がすぐに駆けつけられるようにしている。又町から複合施設全体で、福祉避難場としても指定を受けている。	年2回、避難誘導訓練を夜間想定を含み実施している。地震・津波訓練時には、地域住民とともに高台避難所の神社に車椅子利用者を押し避難するなど実践的な訓練を行っている。福祉避難所指定を受けており、毛布や備蓄食を併設事業所に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を尊重し、プライバシーの配慮が行なえるよう支援している、又、声かけに関しても、管理者より、常に注意指導を行ないながら、職員同士でも、確認し合っている。	職員は、日頃から、利用者一人ひとりのプライバシーを損なうことのない言葉かけなど、利用者の意向を尊重したケアに努めている。事業所では、年1回、プライバシーや個人情報保護に関する研修会を開催し、職員間で話し合い、確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の想いや希望を、表せたり、把握できるよう密にコミュニケーションを図っており、出来る限り自己決定が行なえるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを把握し、食事時間や入浴時間等、出来る限り個々のペースに合わせ、支援が行なえるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様やご家族様に聞いて、好みや個性を十分把握し、更衣時や、整容時等、支援している。又要望があれば、行き着けの美容院等で散髪等が行なえるよう環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては、一括して厨房で行なっているが、月に何回は手作りおやつ等、入居者様のリクエスト等も取り入れながら、一緒になって下ごしらえや、調理等も行なっている。	事業所では、利用者と職員で食卓を囲んでいる。朝食は、職員がつくり、昼・夜の食事は、外部業者が作っている。手作りおやつタイムを設け、ぜんざいやゼリーを作るなど、カフェ形式で時間を過ごせるよう工夫している。利用者は、簡単な準備や片付けの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士は配置していないが、協力医療機関Drより健康面での指示でカロリーや減塩等の管理は行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、清潔保持を図っている。またNslにより口腔ケアの仕方の説明等を受け入居者様の口腔清潔が保てるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限り、トイレでの排泄が促せるよう、紙パンツ、パットにてトイレ介助が行い、排泄パターンを把握し、失禁等防止を図っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、声かけやトイレ誘導を中心に支援を行っている。排泄の自立へ向けたい事は利用者自身で行ってもらえるよう支援している。例え失敗しても、利用者の自尊心を損なうことのないよう留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医療機関と連携を図り、便秘気味の方は、緩下剤の処方や、Nsにより浣腸等の施行や、日常生活の中では、水分補給をしっかり行なえるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特浴での入浴される方が、増えてきており、週3回での決まった日の入浴となっているも、時間帯は午後からで、入居者がゆっくりとお湯につかれ、入浴が行えるよう支援している。	事業所では、週3回は入浴ができるよう支援している。介護度が重度の方については、特浴機を活用するなどして、ゆっくりと入浴ができるように支援している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したり、その日のバイタル表を確認してもらったりして、納得して入浴することができるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や、体力面等をみながら、職員で話し合い、日中も休息が取れるよう環境を整え、体調面の安定を図れるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携は密に図れており、Nsも介護職員として常に配置されており、薬の事に関しては、いつでも聞ける体制である。新たに薬が処方された場合は、Nsから介護職員に対して、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や興味な事を活かし、時に洗濯たたみ等職員と一緒にしない、日々の生活に意欲的に過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	病院受診の際等、ご家族様と行かれる方もおられますが、大半は施設からの送迎等で支援してしている。天候が良い時は散歩に出かけたり、ドライブ等積極的行なえるよう支援している。	日常的に、四季折々の花が咲く、事業所近くの公園等に、散歩に出かけている。事業所には紫陽花を植えており、利用者や地域の方の癒しのスポットになっている。お花見や虫狩り、ドライブなどの外出の機会を設けている。食事会や外泊などには、家族との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかⅡ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での立替払いが大半で、全てレシートで、何を購入したかを、ご家族様に説明が行なえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様と手紙でやり取りをされる方がおられ、継続して行なえるよう、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が作成した物を展示したり、季節に応じた壁画等をリビングや、廊下等に貼り、季節感を感じて頂きながら、居心地がよく過ごせるよう環境を整えている。	事業所内は、掃除が行き届いており、整理整頓を心がけ清潔な環境となっている。利用者や職員の手作り作品や絵画は、決められた場所に掲示されており、季節感を感じることができる。共用空間は、一人ひとりが集う憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、皆さんで話が出来、過ごせる場所と、落ち着いてテレビ鑑賞が出来る場所があり、入居者様の性格等にあつた生活が送れるよう環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に出来る限り、使い慣れた食器や布団等をお持ちして頂くよう、お願いをしている。ご家族の写真等も居室に貼って、おられる方もおられ、居心地よく、過ごして頂けるよう支援している。	居室には、利用者が使い慣れたタンスや思い出の写真など数多く持ち込んでもらっており、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。職員は居室の温度管理に気をつけ、朝・夕のカーテン開閉など細目な温度調整に配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員同士で話し合い、入居者様の状態を見ながら、転倒等リスクを回避しながら、残存機能も活かし、ADL面低下しないよう対応し、安心して生活が送れる環境を整えている。		